

取扱説明書

マレード フレックスバーチカッター

MT200—REV 030

Maredo®MFrame 319-030

Serial #:

重要事項

この機械は単独では動作しません。この機械を動作させる為に別途トラクタが必要となります。更に経験豊富なオペレーターが条件と整備が整った安全なトラクタにて作動させることが必要です。誤った使用方法によるオペレーターや機械、芝生などの賠償責任について弊社は一切関知しません。予めご了承ください。

PTO 最大出力:毎分 540 回転

最高作業速度:時速8km/h.



注意！

安全な作業のため、オペレーターがこの機械とトラクタのマニュアルをよく読み、理解することが必要不可欠です

総輸入元:東洋グリーン株式会社/販売元:

製造元:MAREDO BV, RIJKSSTRAATWEG 16, 3956 CR LEERSUM, NETHERLANDS. EN1607

1.0 安全指導

1. 安全装置の取り外しや簡易的な取付は絶対に行わないでください。
2. オペレーターは本機及びトラクタに関して安全な使用を完全に理解している必要があります。
3. 本機が作業をする場所の点検を行います。障害物を取り除き、急斜面などの不均一な部分を避けてください。
4. 作業中及び移動走行中にも十分に注意して作業を行ってください。
5. 作業中及び移動走行中にはオペレーター以外の人物(または動物)から4m以上離れていることを確認します。
6. オペレーターは作業に適切な衣服を着用してください。
(ヘルメット／保護メガネ／騒音防護具／手袋／長袖／長ズボン／安全靴／長い髪は縛る)
7. 作業に必要な仕様をチェックして、適切なトラクタを選択します。
8. 機械は絶対に最大不可を超えずに作業を行ってください。作業開始時に振動したり、機械が跳ねたりする場合は原因を確かめます。そのまま使用を続けると機械が故障します。
9. 一週間に一度以上は機械を点検してください。緩んでいるボルト／ナット類が無い、損傷した部品が無い、無くなっている部品が無いかなど機械の状態を確認し、必要に応じて修理・部品交換を行ってください
10. 本機は保護カバー及び安全警告デカール(シール)を取り外して使用することはできません。必ず保護カバーと安全警告デカール(シール)を取り付けて使用してください。
11. 本機は必ずメーカー純正部品のみを使用してください。ブレード・ボルト・ナット等の部品や素材は全てメーカーにて最良の作業ができるように設計されました。非純正部品の使用による不具合は一切保証が出来なくなります。
12. 本機は夜間(十分な明るさが無い条件も含む)、悪天候時(大雨・強風・積雪・凍結)、30度以上の急斜面、滑りやすい環境下では使用しないでください。
13. 本機の整備・点検・修理を行った際は記録をし、オペレーターと修理担当者が情報を共有するようにしてください。
14. メーカー、輸入元及び販売店で行われる改造・仕様変更については (CE 規制により) ご購入者ご自身での本機の変更、認証を行ってください。



2.0 はじめに

この度は MAREDO®フレックスバーチカッターMT200 をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。

この機械を安全に長期間お使いいただくため、本機を使用・管理する全ての方はこのユーザーマニュアルを必ずよく読み、理解していただきますようお願いいたします。

また、このマニュアルに記載されている安全ルールを理解し実践していることを確認してください。

この機械は材料、設計、及び組立の不具合に対する保証を購入後 12 カ月間適用されます。

3.0 仕様(主要諸元)

モデル	: M-Frame(M フレーム) 319-030 及び MT200-030 バーチカルヘッドユニット(x3)
作業幅	: 1900 mm
作業深度	: 0 -25 mm
ブレード	: 超硬ブレードチップ付き 2.3mm 厚
ブレード間隔	: 40 mm (15枚刃×3ユニット/1台=45枚)
ギアボックスオイル	: SAE 80/90 W
トラクターサイズ	: 最小 25 馬力/3 点リンク(CAT1)/揚力 500 kg
PTO 速度	:最大 540rpm(毎分 540 回転)
重量	: 365kg

4.0 EU-宣言

製造者 Maredo、Riksstraatweg 16,3956CR(オランダ*レールヌス)

本製品について私たちの権威を健全に宣言します。

Maredo®M-Frame319/MT200 バーチカルヘッドユニット
シリアル NEN-EN-ISO14121 に準拠して製造されています。

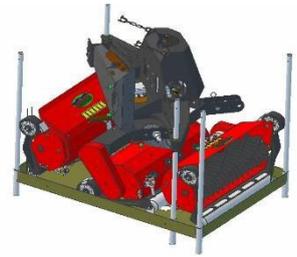
1:2007、The Machine Directive 2006/42 / EG の規定に従います。

Marinus Reincke Maredo BV Holland.



5.0 開梱と初期セットアップ:

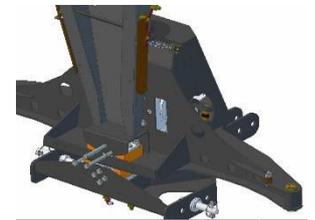
本機は、バーチカルユニットとフレームがパレットに「固定されて納品されます。以下のように機械を組み立ててください。



5.1 パレットからすべてのアイテムを取り出します。

背面のドロワーを M フレームから取り外します。

- ・3 つのヘッド(右側ユニット、左側ユニット、後部ユニットの 1 つずつ)、
- ・M フレームx1、リアフレーム、左右ヘッド用の 2 本の PTO シャフト、
- ・中央用 PTO シャフト(半分のみ)x1、
- ・トラクタ接続用 PTO シャフトx1、チューブクランプ d=80 mm



5.2 M フレームを床の上に立てた状態(右上図)で置き、リアフレームを取り付けます。その後、スタンドを定位置に取り付けます。

5.3 ゴム製ピボットブロックを通る 3 本のボルトでリアフレームを取り付け、ロックナットで固定してください。その後、右図の様に水平に置きなおします。

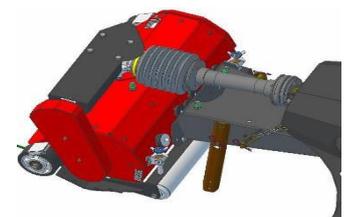


5.4 リアフレーム両側の D シャックルとチェーンを接続します。

D シャックルをしっかりと締めてください。

注意:チェーンの長さを最大に設定してください。

中央のユニットが地面に近い場合、後から調整することができます。



5.5 M フレームを平坦で固い床の上にスタンドを使用して置きます。

5.6 後部ユニットを先に取り付けます。

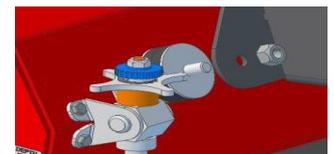
PTO はすでにユニットへ取り付けられています。

ギアボックス側の PTO シャフト(半分)をこの中に挿入し、

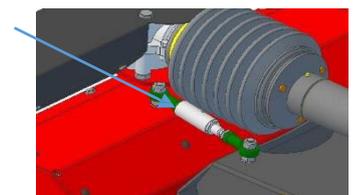
次に PTO 片側をギアボックスのリア(PTO)シャフトに接続します。

PTO シャフトを取り付けた後、5 つのゴムブロックを介して

M フレームのドロワーに後部ユニットを取り付け、すべてのナットを締め付けてください。



5.7 最後に、2 つのショックアブソーバーを後部ユニットとドロワーの間に取り付けます。これで後部ユニットの取り付けが完了しました。



5.8 次に左右のユニットを M フレームへ取り付けます。

5.8 次に左右のユニットを M フレームへ取り付けます

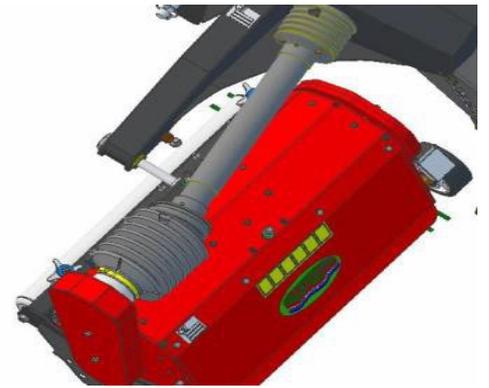
最初に PTO シャフト(アウター側)を左右ユニットへ接続します。

【重要！】PTO シャフトの安全カバーをクランプで固定した場合、カバーに空いている穴(グリスアップ用のサービスホール)は上を向いた状態で取り付けてください。

その後、反対側の PTO シャフト(インナー側)を M フレームの左右ギアボックスへ接続します。

PTO 安全カバーが回らないようにチェーンでフレームへ固定します。

(再度、安全カバーのサービスホールが上を向いているか確認します)



次に、M フレームへユニットを固定します。

ピボットブッシュのナット、ノッチのナットを取り外した後に、

左右ユニットを M フレームへ近づけてスライドさせ、所定の位置でボルト・ナットをしっかりと締め付けます。

左右共に同じ作業を繰り返します。

5.9 MT200 を駆動させるための PTO シャフトの長さを調節する。

MT200 を異なる機種種のトラクタに接続する場合には必ず調整を行います。

A: MT200 をトラクタの 3 点ヒッチに接続し、

左右のバランス・平行を調整します。

B: トップリンクの長さを調整し、A フレームを垂直にします。

C: トラクタの 3 点ヒッチを上下に動かし、PTO シャフトが最短になる位置を確認します。

D: この位置で 3 点ヒッチを固定し、MT200 とトラクタを固定します。

E: トラクタ側の PTO 溝(ピンが固定される位置)と

MT200 の PTO 溝の距離を測定します(=L1)

F: PTO シャフトの長さを測定します。PTO シャフトのクイックリリース用ピンと反対側のピンまでの距離を測定します(=L2)

G: 「L1」が「L2」よりも 50 mm 以上短い場合、何もする必要はありません。

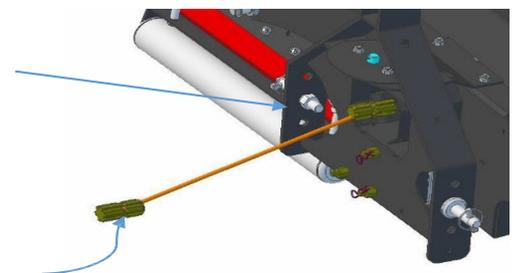
「L1」が「L2」よりも長い場合、適正な距離を測定し

PTO シャフトと PTO シャフトの安全カバー(インナー・アウター共に)を切断します。

H: 一例として 『L1=600 mm』 『L2=500 mm』 の場合

$L1(600\text{mm}) - L2(500\text{mm}) + 50\text{mm}(\text{規定値}) = 150\text{mm}$ となり、それぞれの(アウター、インナー共に)シャフトを 150mm ずつ切断すると使用に適した長さとなります。(必ず取付時に再確認をしてください)

I: PTO シャフトにカバーを取り付け、トラクタと MT200 を接続します。これで使用の準備が整いました。



6.0 (初期) 作動準備及び重要事項

6.1 トップリンクと3点ヒッチの設定。

A フレームの上部にはトップリンク用の3カ所の穴があります。
より上の穴が選択された場合、MT200 は上昇しながら前方に傾く傾向になり、リアユニットの最低地上高さが増えます。
移動時の安全確保の為に少なくとも 200mm が必要です。
本機には3カ所のトップリンク用の穴がありますのでトラクタ側のポジション同様、トップリンクのストローク量により確認し、最適な取付位置でご使用ください。

3点リンクのロアアームは、MT200 がアンジュレーションに追従できるように、最下位置より少しの余裕が残っていることが非常に重要です。

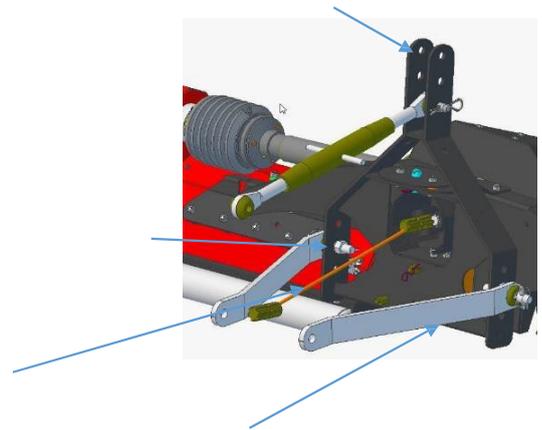
また、ロアアームの幅が狭いトラクタを使用する場合(ロalinkがリアタイヤに接触する場合も含め)

MT200 の本体側のロalinkピンを内側に向けて付け替えることができます。

オプション品として、カテゴリ2トラクタ用のマウントキットも用意されています。

トラクタを入れ替えた場合には必ず PTO の長さを確認してください(5.9 を参照)

長すぎたり短すぎたりすると、ドライブラインが損傷することがあります。



トラクタ側の3点リンク、ロアアームのチェックチェーン(振れ止め/ターンバックル/スタビライザ)を調整し、本機が左右にスイングするまで調整します。左右の振れ幅は規定値として 150mm となります。

これは作業中にトラクタと本機が緩やかにカーブを曲がれるようにするために必要です(最小回転半径2m)

【注意:ただし、移動時は左右ユニットの振れが無くなるように固定する必要があります!】

トップリンクの長さは、リアユニットへの接地圧力を決定するため、重要になります。

通常(開始位置)は A フレームが垂直となっている位置です。

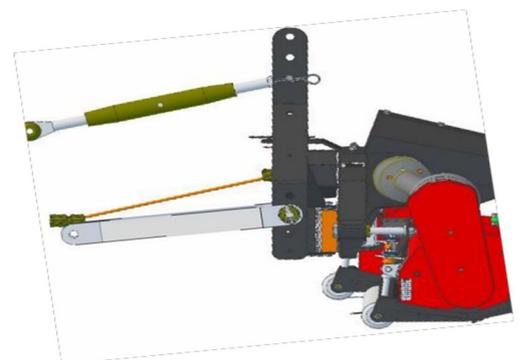
リアユニットは M フレームにドローバーを介して接続されています。

このドローバーは、ラバーブロックピボットポイント(5.3 節参照)を介し M フレームに接続されています。

このピボットポイントは、リアユニットが必要な方向へ移動し、トラクタが移動する方向へのアンジュレーションとカーブに追従することを可能にします。

A フレームは、ラバーピボットポイントを介して

M フレームにも取り付けられます。



作業時にトップリンクを伸ばして A フレームと M フレームを逆方向に押し込むと(Aフレームが後方へ)

ラバーピボットポイントを介してリアユニットにさらに接地圧力がかかります。これは、リアユニットを地表面でより安定した状態に保つのに役立ちます。ただしゴム製のピボットポイントを痛める可能性がありますので、Aフレームが垂直位置から 10° 以内の位置までとしてください。

6.2 深度設定。

左右ユニット・リアユニットそれぞれに2カ所の深さ調整ノブがあります。

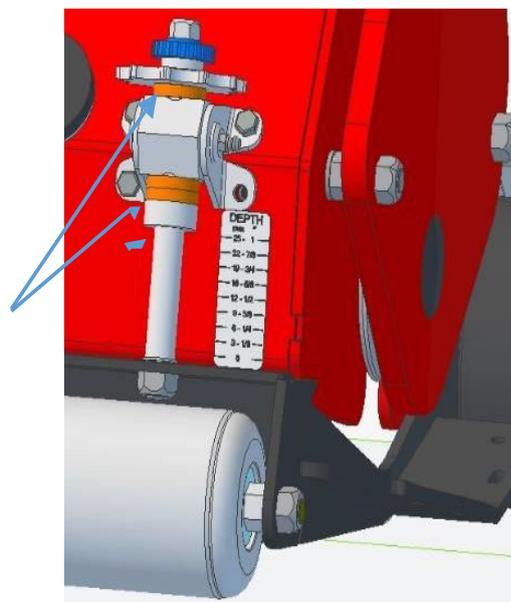
(合計6カ所)調節ノブは工具を使用せずに調整することができます。

ロックナット(図で青色に表示)を先に緩め、

次に調整用のスポークナットを回します。

これによりフロントローラーが上下に動き、作業深さの調整が可能です。

デカル(シール)に記載されている(理論的な)深さをご確認ください。



注意点

A: 深さの表示は、実際に行われる作業深さと異なる場合があります。

芝生面の柔らかさ、刈込高さ、草種によりローラーとホイールがどれくらい芝生に押し込まれているかによって決定します。

このずれは作業深さの調整により補正してください。

B: ユニットの両側、及び左右ユニット、リアユニットを同じ深さに設定します。

C: ユニットの調整ノブの片側だけを(調整中を含め)反対側と10mm以上差が無いようにしてください。

D: ロックナットがきつい場合、スポークナットを先に回してください。

E: 深度設定が完了したら、(青色の)ロックナットを締めて固定します。

6.3 A フレームのロックを解除する。

A フレームの中央にあるピンを取り外すことで、A フレームがメインシャーシからロック解除されます。作業中にカーブとアンジュレーション対応をする準備が整います。

長距離輸送・移動の際はロックピンを元の位置に戻してください。移動中は本機が固定されます。

ロックされていないときはピンを収納用の穴に入れ、機械がロックされているかどうかを簡単に確認できます。

6.4 作業の開始／終了プロセス

6.4.1 作業を行う場所を確認します。

少しでも不安要素が残る場所では作業を行わないでください。

本機は夜間(十分な明るさが無い条件も含む)、悪天候時(大雨・強風・積雪・凍結)、30度以上の急斜面、滑りやすい環境下では使用しないでください。

6.4.2 地表面100mmまで本機を静かに下降させてください。

6.4.3 PTOを作動させ、PTO指定回転数(毎分540回転以下)までエンジン回転数を上げます。

6.4.4 本機を地面に静かに下ろします。

緊急時以外は途中でクラッチペダルを踏んだりせず、回転を維持して作業機を降ろすことが重要です。

必要な回転が維持できていない場合、振動が発生し本機(またはトラクタ)が停止することがあります。

6.4.5 前進します。作業速度は、深度設定と条件によって異なりますが、およそ時速3kmからスタートします。

最高速度は時速8kmまでとしてください。

【注意】条件により、時速8kmに到達しなくてもバッチカルユニットのいずれかが不安定になる事があります。

(振動・異音・回転数低下等)その場合は直ちに速度を下げてください。

6.4.6 最低回転半径は2mです。2m以下の回転半径での作業はおやめください。

6.4.7 作業エリアが終了したらトラクタのポジションレバーを使用して本機を上げ、PTO を解除します。

6.4.8 上記と同じ方法で次の作業エリアを開始します。

6.5 後部ユニットを安全に固定する。

通常の状態ではユニットそれぞれの前部ローラーと後部後輪を介し、それぞれのユニットがアンジュレーションに追従させることが可能です。これは各ユニットがゴムブロックを使用して M フレームにマウントされているためです。

ユニットは下記2つの方法で固定することが可能です。作業に応じてご使用ください。

6.5.1 作業位置で固定する。

左右ユニットを作業位置で固定することが可能です。

左右ユニットはアンジュレーションに追従するために常にフリーで動くことを重点に設計されています。

アンジュレーションを拾いすぎる、または設定の深さよりも

アンジュレーションの関係でユニットが浮いてしまう場合に

ユニットをロックするとユニットを固定し

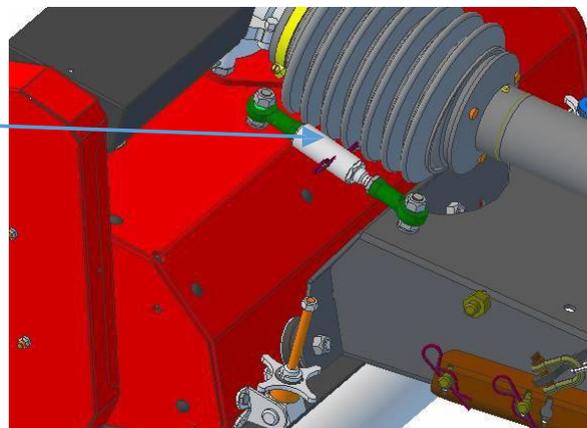
作業時に押さえつけるような作業が可能になります。

Rピン(またはボルト M5)をショックアブソーバーのチューブ(太い方)の穴に挿入します。

これにより、ユニットが(特に深い作業で)波うちをするのを防ぎます。

深さは通常通りの方法で調整することができますが、

実際の設定はデカールの深さと異なる場合があります。



6.5.2 格納(または移動時)状態で固定する。

ショックアブソーバーがフリー状態の時

(MT200 がトラクタにより完全に上昇されている場合、

ショックアブソーバーが伸び切り無負荷状態となります)、

Rピンをショックアブソーバーのシャフト(細い方)の穴へ挿入します。

これは格納、移動時の時に使用します。

この場合、ユニットがロックされ

機械が固い地面に置かれた場合に

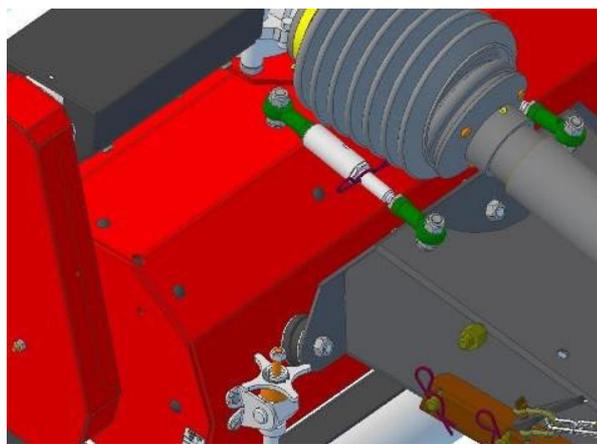
ブレードが地面に触れないように保護します。

※このロック機能だけではなく、下記スタンドも必ず併用します※

Rピンで各ユニットをロックした後にスタンドを使用します。

スタンドは必ず立てた状態で使用し、Rピンで脱落及び転倒しないように確実にロックします。

これで固い地面に MT200 を降ろして保管する準備ができました。



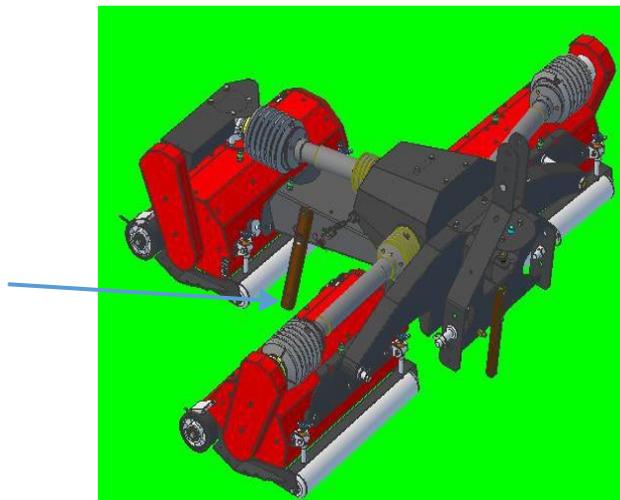
6.6 MT200 とトラクタを分離してから保管してください。

MT200 をトラクタから分離する前に保管場所を確認します。

周りに危険な箇所・可燃物・人や動物がないかを確認してください。

MT200 は固い平らな床で保管を行ってください。これらを守られない場合は重大な事故を引き起こす可能性があります。MT200 をトラクタから取り外す前に、M フレームヘスタンドをセットします。

スタンドは必ず立てた状態で取り付け R ピンを使いしっかりと固定します。



7.0 メンテナンス.

MAREDO®MT200 はメンテナンス箇所が少ない機械です。

ほとんどのベアリングはシールされており、グリスアップなどの注油をする必要はありませんが、以下のメンテナンスが必要となります。

7.1 機械のクリーニング

作業後には MT200 を綺麗にしておくことを強くお勧めします。

通常は圧縮空気か低圧水(通常のホースを用いた流水)を使用してください。

高温／高圧洗浄機を使用する場合は機械本体、塗装部分、危険警告デカール、可動部分が損傷する可能性がありますので十分に注意してください。

機械は定期的に清掃することにより、汚れが付着しにくくなり次回からの使用もより良い作業が可能となります。

※特にブレードにこびりついた汚れは確実に落とすようにしてください。切れ味が変わる、仕上がりが汚くなる、芝生を持ち上げてしまうなどのトラブルの要因となります。

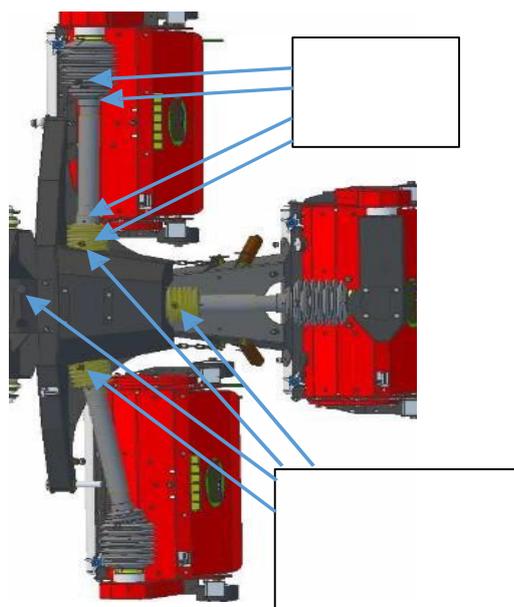
7.2 グリスアップポイント／グリス注入間隔について

MT200 に取り付けられている 4 つの PTO シャフトがグリスを最も必要とする部分となります。

最初の使用開始から 4 時間後(新品の場合)に 1 ポンプ分のグリスを給油し、その後は 25 時間ごとにグリスアップを行います。

すべてのグリスニップルは片側から注入が可能になっています。

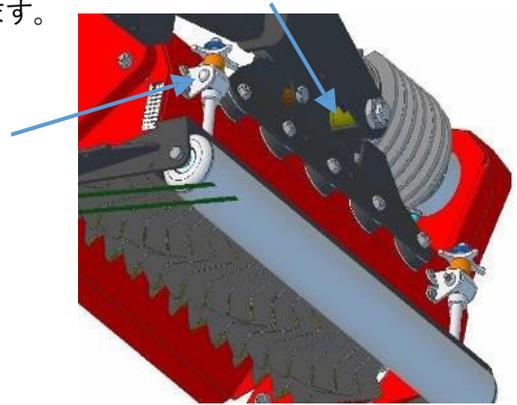
1 本の PTO シャフトに対して 4 カ所のグリスアップ箇所があります。



次に、50 時間枚にグリスアップ(塗布)が必要な部分があります。

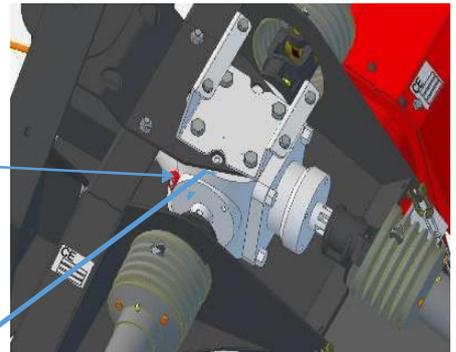
50 時間ごとに 1/2 ポンプ分のグリスアップが必要となる場所があります。

- 1) M フレームの下にあるフロントピボットにグリスを塗ります
2 つのフロントユニットのポイント。
- 2) 50 時間ごとに深さ調整部分に 1/4 ポンプ分のグリスを塗ります。
グリスポイントには過剰にグリスを塗布しないでください。



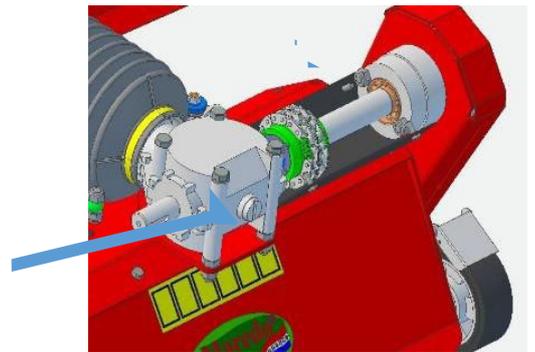
7.3 オイルの点検と交換。

MT200 には 2 つのギアボックスが搭載されています
どちらも同じギアオイル SAE 80 / 90W を使用します。
ギアオイルを初回 100 時間で確認(または補充)し、
その後 300 時間使用毎、または 1 年に 1 回交換を行っ
てください。



メインギアボックスは M フレームに取り付けられ、3 つの
ユニットをすべて駆動しています。

作業前後にはオイルレベルを確認してください。
ギアボックス底部には、オイルを排出するためのドレンプラグ
があります。



第 2 のギアボックスは後部ユニットの上に配置され、後部
ユニットのみを駆動します。オイルレベルゲージはリア側に
あり、これはオイル排出と充填を同じプラグで行います。

7.4 チェーンの整備点検と交換。

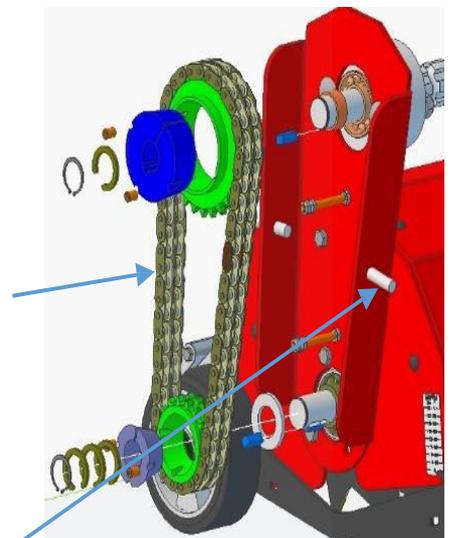
MT200 で使用しているチェーンは注油を必要としません。
20 時間ごとにチェーンの張りを確認します。過度の張力を与えないように調
整を行ってください。過度の張力はベアリングとチェーンの早期摩耗に繋が
ります。

チェーンのストレートエンド(2 つのスプロケットのだいたい中心部分)の遊びを
調整します。遊びが約 10 mm であれば問題ありません。

チェーンの遊びが 25 mm を超えている場合は再調整を行います。

チェーンの調整にはチェーンカバーを取り外し、チェーンドライブ及びスプロ
ケットなど全体的なチェックを同時に行います。

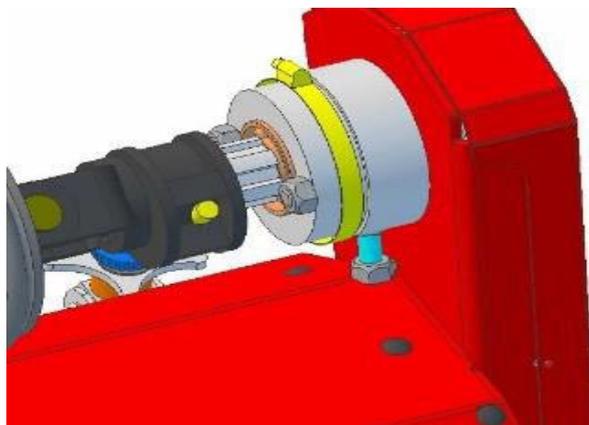
チェーンの簡易的な調整方法は 2 つのロッド(右図白色ロッド=10 mm)
を押して遊びを測定し、必要に応じて再調整します。



チェーンを張る場合は上部シャフトハウジングを上下に動かして調整します。2つのナットを緩め、ハウジングの下にある調整用スタッドボルトとナットでハウジングを上下に動かします。後部ユニットのチェーンを張る場合、ギアボックスとの位置合わせもチェックすることが重要です。

シャフトの位置がずれている場合、ギアボックスの位置を調整してください。

チェーンを交換する必要があるときは、スプロケットも同時に交換することをお勧めします。これはチェーンとスプロケットによる歪みをおさえ、新しいチェーンの寿命に関係します。



8.0 修理・整備・部品交換方法

8.1 ブレードの交換。

ブレードが磨耗した場合、次のように交換することができます。

- ・ユニットを(転倒に注意し)しっかりと立てて置きます。
- ・チェーンを緩めます
- ・フロントローラーアジャスターを外し、フレーム後方へ外します。
- ・ブレード側についているスプロケットを取り外します。

※小テーパロックシステムを採用していますのでプーリー抜きは使わないでください。

2本のソケットスクリューを取り外し、中央の穴に(取り外したうちの1本の)ソケットスクリューを締め付けていくと、テーパロックがはずれます。

- ・シャフト両側のメインベアリングからボルト/ナットを取り外します。
- ・ブレード付きのシャフト全体を取り外すことができます。
- ・次に、プーリー側のベアリングを外します。
- ・ブレードを締め付けているメインナットを緩めます。

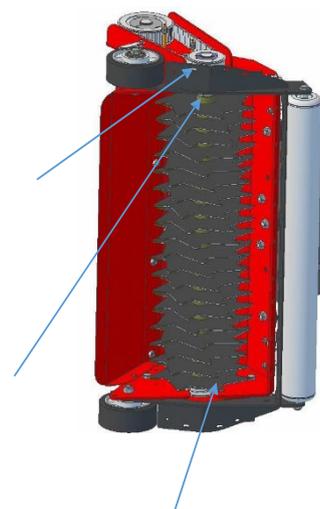
※このナットをロックするためにロックタイト(ネジ用接着剤)を使用しています。

そのため、60°Cまでナットを加熱する必要があります。ロックタイトが柔らかくなり、ナットを取り外すことができます。

- ・ブレードとブッシュ(ブレードとブレードの間にあるカラー)を取り外します。

最初のブッシュを最後のブッシュ(厚みが違います)を混ぜないように注意します。

- ・新しいブレードを取り付けます。注意:ブレードはらせん状に取り付けてください。
- ・メインナットにロックタイトを使用し、このナットをよく締めてください(最小 400 Nm の締め付けトルク)
- ・メインベアリングを取り付け、シャフト全体をフレームに戻して組み立てます。
- ・プーリーを再度組み立てる。テーパロックの2本のソケットスクリューは、2つの外側の穴へ挿入し、締め付けます。
- 1回1本ずつ 20 Nm まで締め付けてください。このソケットスクリューは使用後 10 時間後に再度確認してください。
- ・チェーンを組み立て、7.4 で説明したように張ってください。



9.0 スペアパーツ

MAREDO®MT200 に関する部品についてはサポート Web サイト(www.mared-bv.com/support/)をご覧ください。

(日本国内では総輸入元、東洋グリーン株式会社へお尋ねください)

MT200 用ブレードは 1 ユニットにつき 15 枚／1 台につき 45 枚使用します。



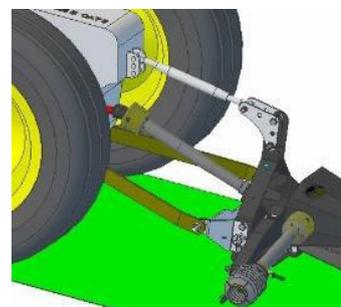
10.0 オプション

10.1 カテゴリ 2 用トラクタマウントキット。

MT 200 は、小型トラクタ用に特別に設計されています。通常はカテゴリ 1、3 点ヒッチを使用したトラクタでの使用を想定しています。

より大きなトラクター(カテゴリ 2)を使用した場合、MT200 が適合しないこともあります。

メーカーオプションでカテゴリ 2 用トラクタマウントキットがありますのでご相談ください。



【MT200Mフレーム注釈】

いくつかの一般的な注意事項：

すべてのボルト/ナットはきつく締めます。
メインギアボックスのオイルをチェック/充填しま
すラバーブロック #52*21を対称的に取り付けます

SOME GENERAL NOTES:

All bolts/nuts tight.
Check/ fill the oil of the main gearbox
Mount the rubber blocks #52 * 21 symmetrically

【MT200RHヘッド用注釈】

いくつかの特別なアセンブリノート：

1. ボルト # 70を200 Nmまで締め、中程度のタイトなロックタイトを使用します
2. デプスアジャスターのナット13を完全に締めないでください。軸方向の遊びまでは離れています。
3. 組み立てる前に、デプスアジャスターシャフト # 26+32に事前にグリースを塗ります。
4. メインナット # 76を1100 Nmまでしっかりと締め、中程度のタイトなロックタイトを使用します。
5. メインチェーン # 77を、側面に5~8mmのたるみができるまで手で締めます。
6. チェーン # 77はメンテナンスフリーなので、グリースを塗らないでください。
7. テーパーロック # 79および67のロックネジを20Nmまで均等に締めます。

SOME SPECIAL ASSEMBLY NOTES:

1. Tighten bolt # 70 up to 200 Nm and use some medium tight loctite
2. Do not tighten nut 13 of depth adjuster fully. Just up to the axial play is away.
3. Pre- grease the depth adjuster shaft #26 + 32 before assembly.
4. Tighten main nut # 76 well till 1100 Nm + use medium tight loctite.
5. Tighten the main chain # 77 up till the side has a slack of 5-8 mm by hand.
6. Do NOT grease the chain #77 as it is a maintenance free one.
7. Tighten the lock screws of taperlock # 79 and 67 up to 20 Nm evenly.

【リヤヘッド用注釈】

いくつかの特別なアセンブリノート：

1. ボルト # 82 を 200 Nm まで締め、中程度のタイトなロックタイトを使用します
2. デプスアジャスターのナット 17 を完全に締めないでください。軸方向の遊びまでは離れています。
3. 組み立てる前に、デプスアジャスターシャフト # 31+40 に事前にグリースを塗ります。
4. メインナット # 91 を 1100 Nm までしっかりと締め、中程度のタイトなロックタイトを使用します。
5. メインチェーン # 96 を、側面に 5~8mm のたるみができるまで手で締めます。
6. テーパーロック # 79 および 95 のロックネジを 20Nm まで均等に締めます。
7. チェーン # 96 はメンテナンスフリーなので、グリースを塗らないでください。

SOME SPECIAL ASSEMBLY NOTES:

1. Tighten bolt # 82 up to 200 Nm and use some medium tight loctite
2. Do not tighten nut 17 of depth adjuster fully. Just up to the axial play is away.
3. Pre- grease the depth adjuster shaft #31 + 40 before assembly.
4. Tighten main nut # 91 well till 1100 Nm + use medium tight loctite.
5. Tighten the main chain # 96 up till the side has a slack of 5-8 mm by hand.
6. Tighten the lock screws of taperlock # 79 and 95 up to 20 Nm evenly.
7. Do NOT grease the chain #96 as it is a maintenance free one.